

## 第2回夢洲駅デザイン委員会 議事要旨

### ○会議の日時及び場所

2022年2月2日（水） 15:00～16:30

大阪市高速電気軌道株式会社 本社1階 大会議室

### ○出席者の氏名（敬称略）

委員長	大阪府立大学 研究推進機構特別教授	橋爪 紳也
委員	京都市立芸術大学 教授	藤本 英子
委員	株式会社藤本壮介建築設計事務所 代表取締役	藤本 壮介（リモート）
委員	（代理）大阪都市計画局 拠点開発室副理事	正垣 啓之
委員	大阪府・大阪市IR推進局 理事	辰巳 康夫（リモート）
委員	（代理）大阪港湾局 計画整備部長	丸山 順也
委員	大阪市高速電気軌道株式会社 代表取締役社長	河井 英明
委員	株式会社大阪港トランスポートシステム 代表取締役副社長	美濃出 宏人

### ○議題

#### 夢洲駅のデザイン（案）の提案

- ・第1回デザイン委員会で説明した5つのコンセプトの具体案を説明
  - ①折り紙天井、②鏡面・ゆらぎ、③灯り、④本物の素材、⑤演出
- ・ホーム階、コンコース階、改札前広場のパースと使用する素材について説明
- ・最先端トイレの整備の方向性、「交通システムのショールーム」の一例について説明
- ・素材サンプルの確認
  - 天井ユニット（アルミ生地クリア塗装）、金属板、ライン照明等

### ○議事の内容（委員の主な意見）

#### ◆全体デザインについて

- ・世界がより地球環境や自然素材に対してダイナミックに動いている中で、折り紙天井のメタリックな輝きや形状、LED照明、サイネージの質感が、ひと昔前の未来のイメージとしてとられないか危惧する。
- ・こういったメッセージを世界に発信するののかについては議論が必要である。
- ・100年続く駅ということで、21世紀前半の懐かしいデザインにはなると思うが、時間が経過すればするほど良いと思われるようなデザインや素材の検討が必要である。

#### ◆大阪らしさ・夢洲らしさについて

- ・折り紙天井や鏡面・ゆらぎの手法で多様性を表現するというのはストレートには伝わりにくいのでは

ないか。また日本文化に根差しているのはよいと考えるが、大阪らしさ・夢洲らしさも必要ではないかと考える。

- ・夢洲という場所らしさを考えると、ごみの処分や残土、浚渫土砂で埋め立てた土地であることで、もともとリユース、リサイクルの文脈がある。可能であれば天井に使用するアルミをリユースに。
- ・大阪の原点は様々な人々が海外を含めた様々な地域からやってくる港であった。そうした背景から、住吉の神、芦原、みおつくしなど、海や港湾にゆかりのあるデザインモチーフが多くある。港のモチーフが折り紙とうまく接続できないか。物語として語り、国際交流ともつなげていきたい。
- ・天井ユニットに1本線を引くとみおつくしのマークになる。部分的に入れても良いのではないか。
- ・大阪湾は夕陽を望む優美な場所。外の変化に同調して調光調色する等で、昼から夕方にかけて移ろいの時間をデザインするのも良いのではないか。

#### ◆改札前広場・トイレ・交通システムショールーム等について

- ・改札前広場のパースについて、今後改札のあり方は変わっていくと考えられるので、未来的な絵にしてほしい。
- ・改札については、改札機の半分を顔認証にしたいと考えている。
- ・トイレについては、全てのフロアを性別で区分しない動きもあり、一体的な思い切った提案を。
- ・交通システムのショールームについては、交通システムの将来像を大きく示すことが重要では。
- ・万博で大阪の交通を進化させた都市型 MaaS を発信し、万博のレガシーとして進めていきたい。

#### ◆その他

- ・地下鉄事業は交通インフラにとどまらず、活力インフラと位置付けている。大阪を盛り上げる一助を担いたい。サイネージを大きな目玉にしたい。映像と音響の演出で万博を盛り上げたい。
- ・万博から IR 開業までの間も一定のお客様が来られるよう、駅そのものが訪れたい目的になることが重要である。
- ・来られたお客様がスムーズに進んでいけることが重要。動線を意識できる空間づくりができています。
- ・メンテナンスの費用ができるだけ少なくなるデザインを検討してほしい。
- ・万博会場へつながる駅前広場について、デザイン的にもつながるよう、情報交換し進めていきたい。
- ・夢洲駅の3つのフェーズの要請に対応し、可変性のあるデザインにすることが重要である。

#### ◆素材サンプルについて

- ・ステンレス水面加工パネルとアルミ生地クリアの中間の映り方をする素材を部分的に使えないか。
- ・4枚のパネルが集まる中央の角部分が三角形ではなく台形になっている。三角形に近づけられないか。
- ・パネルを一枚のように見せる工夫など、より折り紙というコンセプトを際立たせてほしい。

#### ○今後の提案に向けて（事務局【提案者】）

- ・駅を100年ものものにするため、演出で示した3つのフェーズで駅全体を考えていく必要がある。
- ・近年、「地球益」という概念をよく聞く。2025年までは大阪からそうしたメッセージを発信していく

必要がある。一方で IR 開業までの収益性を考える必要があり、IR と万博でお客様の求めるものも異なるのではないかと。

- ・ 変える部分と変えない部分を分けて考え作り込んでいきたい。サイネージは変える部分とする。変えない部分として、リサイクル性が高いアルミを象徴的に使いたい。
- ・ 東京オリパラのメダルに都市鉱山のリサイクル金属を使ったように、リユースのストーリーを世界に発信していきたい。
- ・ 変わるものと変わらないものをしっかりと分けて作り込んで、次回の委員会に向けて提案したい。
- ・ 大阪らしさは強く意識していきたい。ここでしか体験できないようなことを演出で考えていきたい。

#### ○今後の開催日程

- ・ 第 3 回夢洲駅デザイン委員会 2022 年 3 月 24 日 15 : 00～